

達との交流を通して、不器用ながらも少しずつ変化し成長していきます。何かと生き辛く、困難な事が多い現代に生きる私達ですが、「人生は何とでもやり直せるんだ。」という勇氣と希望を感じさせてくれる1冊です。 Y・K

『僕たちが何者でもなかった頃の話をしよう』『続・僕たちが何者でもなかった頃の話をしよう』 山中伸弥ほか著 文春新書

不確かな日々の生活のなかで、人との出会いが人生の転機となり希望を見出した、という話はよくあることだ。先生と生徒以外に出会いがほとんどない学校ではどうしようか、ということはこの2冊を紹介したい。漫画家からノーベル賞受賞

者まで各分野「トッププレーヤー」の若かりし頃を知り、人様（ひとさま）の人生に学びたい。活字から学ぶ「目学問（めがくもん）」であつても、十分に刺激的だ。 N・A

『ほんとうのリーダーのみつかけかた』 梨木香歩著 岩波書店

多くの皆さんが知っている『西の魔女が死んだ』の作者による書物です。今の時代を生きて行くには、子どもも大人も本当に大変です。「何を、どう考えていくのが良いか」、答えは示されていません。それでも僕らはこの世の中に生を受け、これからも生きていかなくてはならない。この本は「自分自身とどう向き合えば良いか」のヒントが詰まっています。自己肯定感を高くして生きたいと考

ている「あなた」に「希望」を与えます。手に取っていただく下さい。 『転換期を生きるきみたちへー中高生に伝えておきたいたいせつなこと』 (犀の教室) 内田樹ほか著 晶文社

数年前に読みました。皆さんが物事を考えるときの指針になるように思います。ちよつと難しいかもしれませんが、まじめに世の中を考えて、どう関わり、「希望」を獲得していくか、あなたが考えてください。良書は薬です。 K・Y

『ことわざの論理』 外山滋比古著 ちくま学芸文庫 「ことわざは長い間、語り伝えられてきた生活の英知である。」(まえがきより)。国内外のことわざを通して、人とは、世の中と

は、どういうものかという、人間・社会に対する普遍的な理解を深めることができるエッセイ。著者の語り口に読みやすく、心地よい本。ことわざの中に、「希望」を見つけられるかも。 『失敗の本質 日本軍の組織論的研究』 戸部良一ほか著 中公文庫

『大東亜戦争』におけるいくつかの重要な作戦における日本軍の敗北の要因を、日本軍の組織的特性を中心に研究することで、そこから教訓を導こうという本。これにより明らかになる特性が、現在の日本の組織一般にも共通しているのであれば、「希望」に満ちた未来を手に入れるために、生かすことができる点は多いはず。 T・S

はと時計

7/8月合併号
松蔭中高図書館
2021.07.15
編集：眞鍋

中学生向け

『西の魔女が死んだ』

梨木香歩著 新潮文庫

今年のテーマは「希望」です。コロナ禍で種々の変化に振り回され、大変な状態が続く昨今。このような時代であるからこそ、読書を通じてそれぞれの夢や希望を見つけ、力強く自立した生き方をしていく契機にしてほしいと思います。今年は初めて全校で同じ企画！POPを作成します。まず中学生向け（1p）、中高生向け（5p）高校生以上（14p）、と紹介していきます。

なかには図書館に行かないと入手できない本（絶版）もありますのでご注意ください。

『青空のむこう』

アレックス・シアラー著 求龍堂

ます。そのおばあちゃんは魔女!?多感な時期を過ごすまい。おばあちゃんとの時間の中で感じた想いはしっかりと心に刻まれていると思います。映画化もされています。映像も素敵です。 Y・Y

冒頭から主人公が亡くなっている設定で、どうなるのかなと思いつつ読み始めました。主人公の言葉や行動に後悔のない生き方はなかなかできないけど、素直に想いを伝えたり、周りの人を大切にすることなど、少し勇氣を持つことで希望につながる道につながるのではないかなと思えた1冊でした。表紙もステキな青空が描かれていて惹かれまし

た。 『ぼく モグラ キツネ 馬』

チャーリー・マッケジー著 川村元氣訳 飛鳥新社

文字を追っていくだけならば、すぐに読み終えることもできます。でも、あるページにとどまって考え込んでしまつて何日もかかるかもしれません。特にどのページのどの場面がいいなんて言うこともできません。だけれど、元氣をもらえる言葉や慰められる言葉、希望を持てる言葉をどこかに見つけられるんじゃないかと思えます。 H・W

『ギリシア神話』 石井桃子編・訳、富山妙子絵 のら書店

「その箱を決して開けてはなりませんよ」そう言われて開けない話はありません。この世でいちばん美し

”A Wrinkle in Time” 『五次元世界のぼうけん』

Madeleine L'Engle著 Square Fish

Meg is a high school student who feels different from other kids. The appearance of the mysterious Mrs. Who, Mrs. Which and Mrs. Whatsit starts a journey for her to find her father. Throughout the story she must keep up the hope she can save her father, and later defeat the enemy IT. This science fiction story is a classic and was into made a movie in 2018.

A・H

い娘パンドラは、好奇心に負けて箱を開けてしまうのです。この世界に「希望」がある理由が、神話とともに描かれます。ギリシャ神話について、なんとなくは知っているけれど、曖昧というあなたにゼウスをはじめとする神々の破天荒ぶりは突っ込みどころ満載です。*この本と一緒に、中田敦彦のYoutube大学 ギリシャ神話編を視聴することをお勧めします。(ついでに北欧神話編も視聴すると、アベンジャーズや進撃の巨人の世界との関連性にもアツくなりますよ。)

H・M 『はじめてのオーケストラ』 佐渡裕著 小学館

お父さんが指揮者をしてる6歳の少女がはじめてコンサートに行くお話です。

”Rain Before Rainbows”

Smriti Prasad-Halls Candlewick Press

A girl and a fox are traveling together away from a sad past into a colorful and bright life. Along the way, they find friends to help and support them, and find a world of hope. This book has some amazing colorful pictures, especially at the end. The book's main message is that after something bad, something good will come. Without rain, you cannot see a rainbow. This is an English kids book, but I think it is a fun way to learn some new words you may not know. Give it a try.

D・H

女の子のワクワク感が伝わってきます。ちなみに本校の中学1年生は、3学期に「わくわくオーケストラ教室」(兵庫県立芸術文化センター)に行きますが、著者である佐渡裕さんは兵庫芸術文化センター管弦楽団の芸術監督でもあります。

K・S

『スノーピー こんな生き方探してみよう』 チャールズ・M・シュルツ著 朝日文庫

チャールズ・M・シュルツの漫画「ピーナッツ」には、いわゆる心に響くいい話、いい言葉が満載されています。おそらく作者のシュルツ自身、熱心に聖書を研

『最後の医者』 者は桜を見上げて君を想う

二宮敦人著



TO文庫

生きることには小さな希望を抱く患者や家族、死を受け入れ、残りの人生を懸命に生きる患者、最後まで軌跡を信じ「生」を諦めない医師、「死」を肯定する医師、様々な人の生き様を描いています。重い内容ですが、どんな時も希望を持つことは、人を支える光となると感じる一冊です。

M・S

『坂の上の雲』 1〜8

司馬遼太郎著 文春文庫

日本騎兵を育成し、中国大陸でロシアのコサック騎兵と死闘をくりひろげた秋山好古。東郷平八郎の参謀

として作戦を立案し、日本海海戦でバルチック艦隊を破った秋山真之。病床で筆をとり続け、近代俳諧の基礎を築いた正岡子規。この三人を中心に、維新を経て近代国家の仲間入りをしたばかりの「明治日本」と、その明治という時代を生きた「楽道家達」の生涯を描いた司馬遼太郎の歴史小説です。

今、NHK大河ドラマでは渋沢栄一が描かれています。江戸時代から明治時代へと移り変わり、様々な人たちが新しい視点で日本という国に貢献し、今の日本を築いてきました。そういう人たちのことを知ってほしいと思います、この本を推薦しました。全部で8巻の超大作ですが、是非読んでください。(追記・ドラマになった作品ですので、D

VDもあると思います)

『学び続ける力』 池上彰著

講談社現代新書

勉強することの意味、学び続けることの意味について考えさせられる本です。「教養」とは、についても深めることができます。色々学習についての価値について悩んでいる人は、さらっと流し読みして気分転換できると本かなあと感じます。

F・T

『夜と霧』 ヴィクトール・E・フランクル著

みずす書房

著者は、第二次世界大戦時にナチスに強制収容所に連行されるも、その後生き延びた精神学者である。壮絶な体験を学者としての研究のベースに作り変えた。その中で、特に印象に残った文をあげる。それは「何

が生きる意味をもたらすか」という文だ。絶望的な状況においても、人間としての尊厳を失わなかった人間が確かに存在した。人間の良心とは本能的なものである。そう私に確信させてくれる名著である。

M・S

『「つなみ」の子どもたち』 森健著

文春文庫

東日本大震災を経験した多くの人の生の声をきくことによってもし自然災害等で厳しい体験をした場合どう克服しどのようにに生き、何を希望とするのかのヒントが得られればと思います。本を推薦いたします。

M・N

『カーテンコール!』

加納朋子著 新潮文庫

様々な問題を抱え、単位不足で卒業できない女子大生達。特別補講合宿を計画していた理事長一家や仲間

『学校では教えてくれない差別と排除の話』

安田浩一著 皓星社
《図書館にあります。絶対に おすすめ!》

希望というのはテレビでお笑い見て「笑える」というような形でやってはきません。まるでもぐらたたきのように、出てくる差別、偏見に対して一つ一つ辛抱強くたたいていく、抵抗していく、ノーと言っていく。そういう作業を経て初めて見えてくるものです。時にそれは政治家やお役人、そしてネットの住人からバカにされ、うっとおしがられることも伴います。著者の安田さんはヘイトスピーチが開始したころから、誰よりも早く取材し、注意を喚起してきた人です。ヘイトスピーチだけではなく、外国人労働者の実態

についても詳しく説明されています。コンビニのレジが外国人(アジアの人のことが大半)だったってことないですか? 都市だけでなく農村も、今や外国人労働者がいなければ成り立たない状態になっています。私たちがそれなりの価格で食生活を維持できているのは彼らのおかげであるという実態。その割にいかに彼らが低賃金で差別的に扱われているかを私たちは知らない、という事実。

誰かの不幸の上に成り立つ幸福や希望は嘘っぱちだと思います。このような問題を1つずつ解決していくことで、希望は見えてくるのではないか。彼らへの差別・偏見を放置すれば、いずれそれは私たちにも向かってくるはずで、希望を生み出すって、多少の努力や

闘いがあつてこそだと思われれます。 A・N

『パンダの親指 進化論再考 上下』ステイヴン・

科学や科学者の力に希望を感じます。訳が少し難解で、細部が分かりにくいかもしれませんが、何となく筋をつかむだけでも面白さは伝わってくると思いますよ。 N・N



『ナミヤ雑貨店の奇蹟』東野圭吾著 角川文庫

悪事を働いた3人が逃げ込んだ古い家。廃業しているはずの店内に、突然シャッターの郵便口から悩み相談の手紙が落ちてくる...というところから始まる不思議な話です。映画にもなっています。ですが、できれば本で読んで欲しい作品です。不思議な話ですが、最後に希望を感じさせてもらえる、いい作品です。 N・O

究した人で、敬虔なクリスマスチャンであったから、自然と聖書的な内容が漫画に反映したのかも知れません。またキリスト教的な雰囲気だけでなく、人生を生き抜く力や気持ちを持たせる言葉などもさりげなく記されています。この本には、漫画の中の台詞の中から前向きに生きるヒントを感じる言葉をピックアップし紹介しています。色々な場面で私たちが元気にしてくれることと思います。

『空色の地図』

梨屋アリエ著 金の星社

ある日突然届いた手紙。8歳の夏休みに未来の自分宛てに書いた手紙がなぜ今届くのか。悩み多き14歳の初音は見失った自分を探しに、とある場所へと出かけて行く。

S・T

私自身この本を中学生の時に読み、勇気をもらいました。前を向いて進むもうと思える一冊です。とても読みやすく、自分と向き合う登場人物たちの気持ちにも共感しやすいと思います。

M・K

『わたしはわたし。そのままを受け止めてくれるか、さもなければ放つといて。』アルファポリス編集部編・発行 星雲社(発売)

さりげない言葉、短い文章でも疲れた心に、多少の元氣と希望を与えてくれるものです。そんな頼れる言葉集がこの本。「私は私。そのままを受け止めてくれるか、さもなければ放つといて。」ロザリオ・モラレス(詩人 プエルトリコ)。「さばればさびる」ヘレン・ヘイズ(女優)。「葉を10

錠飲むよりも、心から笑った方がずつと効果があるはず。」アンネ・フランク。ね、ちよつと折れかけた気持ちも立ち直れそうな気がします。すぐ読めます。おすすめです。

『ピンチ!!でもそれはチャンスだ!』大野正人著 高橋書店 《図書館にあります》

そもそも人はどうしてピンチになるのか? それは今の自分ではどうにもできないことが起きているから。と言うことは、ピンチをどうにかしようと思えば、それは自然と「今までの自分ではできなかったこと」をすることになる。だから「ピンチは自らを成長させるチャンス」なのだ。...という考え方につらぬかれた本。「友達とケンカしちゃっ

た!」「学級委員をまかされた!」「クラスでうてる!」「嫌いな人が隣の席!」...とたくさん具体的なケースに、それぞれユニークな回答。でもそれぞれの回答にピンチをチャンスに変えるヒントが満載。読んだらきつと、ちよつぱり元気になると思うよ。 A・N

『桃太郎は盗人なのか?』倉持よつば著 新日本出版社

「読書運動」で紹介するのはふさわしくない本かもしれない。『桃太郎』の鬼の評価の違いに疑問を持つた筆者が『桃太郎』を読み比べ、「鬼」と桃太郎について自分なりに検証してみた、という調べ学習のまとめ本である。大人の目線で見ると、「あそこが足りない、ここを検証がまだ甘い」

とツッコミも満載ではあるが、小学生らしい視点とエネルギーで様々な地域に実際に足を運んで検証している姿勢は大変素晴らしいものである。疑問や課題の提唱の仕方、検証の仕方など、参考になる面は多々あると思うので、ぜひ、中学生（と高校生）のみなさんは一度読んでいただきたい。そして、せっかくなので、

をチラ見して：セーフセーフ、かぶっていかないわ、というわけで紹介させていただきます。2016年にアフガニスタンで殺害された中村哲氏の功績を、親しみを込めて振り返った絵本です。ちよっとリアルで素朴な絵が味わい深く、ぐいぐい読んでしまえます。彼のように、多くの人の希望になれる人は珍しいかもしれませんが、信じることをまっすぐ突き進むことで、誰かの希望につながるというなど思えた1冊でした。

『カカ・ムラドーナカムラのおじさん』

ガフワラ原作 双葉社

図書館で見つけて、「今回のテーマにもあっている!!」と推薦を決めたのですが：寄贈書ではないですか。寄贈者の推薦図書と紹介文

「やってくる悲嘆のサイズは決まっている。」というフレーズから始まる引用文は優しく心に届く。巻末のブックリストも興味深い。2009年9月におおつかのりこ氏の訳文で発行されたこの本は、20年先でも古くはならないが、今だからこそ伝わるものがあると思う。

『王への手紙 上下』

トンケ・ドラフト著 岩波少年文庫

騎士になるための最後の夜に、主人公のティウリは見知らぬ男に王への手紙を届けてほしいと依頼を受ける。ところから物語が始まる。騎士では目立つ、と強く頼まれ、ティウリは戸惑いながら引き受ける。そして、

『障害犬タローの毎日』

佐々木ゆり著 アスペクト

副題に「すべての脚を失った捨て犬の涙と笑いの11年」とあります。もともと太郎は、お寺の境内に捨てられていました。それをおじいさんが拾われて育ててもらっていました。原因不明の病気のために四肢を切断し

『少年と犬』

馳星周著 文藝春秋

短編が数珠繋ぎになっていきます。どのお話もほぼバッドエンドなんです。常に寄り添う犬に光を感じる物語です。 H・S

『ドラゴン桜』

三田 紀房 講談社

『家族だから愛したんじゃない』(小学館)の中に出てきた本で、気になって読んでみました。ドラマ化もされており、2021年4月25日からは前作の15年後を描いた続編『ドラゴン桜』が「日曜劇場」枠で放送されました。私も東大に入れるかも!?と思わせてくれる学習法でストーリーが進んでいきます。自分の学習方法を見つげるために一度読んでみては？読んだ後は勉強

がしたくてたまらなくなるかも!?

M・A

『お探し物は図書室まで』

青山美智子著 ポプラ社

今年度本屋大賞第2位。悩みを抱えた5人の人たちが人生を立て直していく話です。5人それぞれの視点から語られている短編集ですが、5人が共通して訪れるのが小学校の敷地の一角にあるコミュニティハウスの図書室。そこで出会う司書のさゆりさんが紹介する本、すなわちさゆりさん自身にそつと背中を押されて、それぞれが自分の人生を前向きに歩み出せるようになります。

悩みのない人はいません。つまずいたり落ち込んだりしても、少し視点を変えれば人生がよい方向に動き出すということを教えてください。

る本です。読み終わったら心が温かくなり、希望にみちあふれた気持ちになる一冊です。

松蔭の司書の先生方も、

きつと皆さんの「お探しもの」を見出すお手伝いをしてくださいます。希望を見失いそうになったら、図書館を訪ねてみてはいかがですか。

『おしゃれなエゴが世界を救う』

サフィア・ミニニ 著 日経BP社

先日、高1はBlue Earth塾でファッションロスについて学びました。その時にこの本を思い出しました。この本を思い出しました。先進国向けの大量消費のファストファッションのために途上国の貧しい人たちが低賃金で働かされています。この本が出版されてから10年以上経つのに、現状は大きくは変わっていません。

いているにもかかわらず、情景はしっかりと目に浮かぶ程度に地の文があり、時々出てくる騎士などの硬いしゃべり口調や少年たちのやわらかくも幼さの残る素の口調が良いテンポを生み出している、思ったよりもすいすい読める。読み応えがあるが、あつという間に進んでいく爽快感も味わえる。16歳の少年の冒険と、その結末をぜひ味わっていただきたい。 S・M

ん。 著者は、そんな途上国の人たちが自立して生活できるようにするために、フェアトレードで貧困の連鎖を断ち切ろうと奮闘しています。著者のパワフルな生き方が、一人一人が希望を持つて何かを始めればきつと世の中は動くということを証明しています。

筆者の言葉 People before profit (利益より人を優先しよう。)は私のモットーです。そういうことができる人でありたいと思っています。

皆さんも、ファッションロスだけでなく国際的な人権・貧困・環境・貿易問題などについて一緒に考えてみませんか。そして行動してみませんか。 K・Y

変化の先にユートピアが垣間見える作品です。

S・T

『定年オヤジ改造計画』

垣谷美雨著 祥伝社文庫

定年を迎えてのんびり過ごそうと決意していた庄司常雄が、実際に過ごしてみると家庭に居場所がない。妻からは避けられ、娘からは邪険に扱われる。そのよ

うな中で離婚回避し、家族再生を目指して前向きに？ 過ごそうとする初老の方のお話です。どんな年齢でも考えを新たに前向きに過ごすことができるということ、また主人公の庄司常雄も周

『弁当屋さんのおもてなし』

喜多みどり著 角川文庫



恋人に二股をかけられ、ぼろぼろな気持ちで転勤に。周りに誰も知り合

M・S

『その日東京駅五時二十五分発』

西川美和著 新潮文庫

広島生まれの、映画監督でもある著者によって、淡々と語られるあの戦争。戦争

なくてはならなくなりました。その後、動物病院の先生に引き取られて、穏やかな毎を送るようになります。安楽死ではなく、四脚を切断してでも小さな命を守ろうとした人達と、障害にも負けずに元気に毎を送るタローの姿から、生きる希望をもらえるような気がします。かわいいタローの写真にも癒されますので、ぜひ手に取ってみてください。

N・O

『生きる』の意味―ある少年のおいたち』

高史明《コ／サミヨン》著

ちくま文庫

戦時下の日本に生まれ、敗戦を迎えるまでの、ある在日朝鮮人少年の生い立ちをたどりながら、人間が生きることの意味を考える。在日朝鮮人の形成の歴史と

を生きた普通の人々、戦争の後も生きなければならなかった普通の人々。少ない文字数で語られる詩的な物語の、何と豊饒なことか。

光文社文庫

『戦争の世紀を超えて』

池澤夏樹・本橋成一著

選ばれた言葉が繋がって出来上がった文章は、視覚的にも訴えてきます。『イラクの小さな橋を渡って』

光文社文庫

『戦争の記憶がある』

森達也・姜尚中著 集英社文庫

他人事として被害者に同情することは、わりとたやすくいように思います。そうではなくて、被害に対して心底から憤ることは、ちよつと難しい。さらに、自分が加害の側にまわるかもしれないなどということは、考

中高生向き

『光まみれの蜂』

神野紗希著 角川書店

作者が16歳から28歳までの12年間で作った俳句をまとめた句集です。高校生時代の作品も多いので、身近なテーマで作られていて共感できると思います。また、俳句という難しく思う人も多いかもしれませんが、この句集では難しい言葉が使われていないので、すつと心に寄り添う俳句に出あえること間違いなしです。

角川書店

『球心―心を育てる野球の名言』

花田達郎編 英和ムック

「野球」というスポーツを通じていろんな場面使われた言葉がまとめられています。たくさん言葉の中から共感できるものがあれば今後の人生に役に立つものもあると思います。

英和ムック

『アルジャーノンに花束を』

ダニエル・キイス著

知能の高い低いってなんだ。頭の良い悪いと同じな

のか。そして知能の高低は人の幸福と関わりがあるのか。その答えの一部が、こ

の本に書かれている。(本を読んでも百点満点の答えはない。それは自分で探すのだ。)

るようになってくるではないか。更に内容もどんどん高度になっていく。その文章の変化こそ、主人公が高い知能を獲得していく過程である。

た作品です。ある日殺人罪に問われ、ショーシャンク刑務所に収容されてしまう主人公のアンディー。過酷な状況下にあっても自らの生き方を貫くことで、やがて奇跡を起こしていきます。希望がいかに人間の魂を救うかを教えてくれる1冊です。本作を読む前後に映画【ショーシャンクの空に】を観ると、さらに感動に包まれること間違いなしです!

M・B

” Life Doesn't Frighten Me ” (25th Anniversary Edition)
Maya Angelou (words) / Jean-Michel Basquiat (pictures)
Harry N. Abrams; Illustrated edition
Anyone can read this poem
This is a poem about being brave. It is a poem about courage and strength and hope. When things feel scary and difficult and you want to run away, everyone has the power inside them to stop and say: 'I am not afraid' because life doesn't frighten me at all. The art in the book makes the words feel stronger and more real. Not only does this poem have a good message, it gives you a lot of things to think about.

主人公は幼児の知能しかない32才の青年。あるとき彼は脳外科手術を受けて高い知能を手に入れる。主人公の日記形式で書かれているため、初めの方は読むに堪えない。おかしな日本語で綴られていて、イライラする。ところが、読み進めていくうちに、なんと違和感なく読め

最初の数ページを我慢できれば、得るものは多い。一読の価値あり。
T・M
『ゴールデン・ボーイ』
『恐怖の四季 春夏編』
ステイブ・キング著
新潮文庫
この本に収録されている「刑務所のリタ・ヘイワース」は、映画【ショーシャンクの空に】の原作となっ

『夢をかなえるゾウ』
水野敬也著 文響社
主人公はいつか夢をかなえたいと思っている平凡なサラリーマン男性。夢を叶える方法がわからず、それに向かう努力をせず、気力もありません。ある日、インド旅行の土産のガネーシャ像に「変わりたい! 成功したい!」と訴えながら号泣

『M 愛すべき人がいて』

小松成美著 幻冬舎文庫
博多から上京したごく平凡な少女が、プロデューサーの“M”と出会い、やがて恋に落ち、“浜崎あゆみ”として瞬く間にスターダムへと押し上がっていく様を描かれています。いろんな苦労困難を乗り越えていくサクセスストーリーに「希望」も見えてくるのでは? 昨年ドラマ化され田中みなみさんの強烈なキャラクターにも注目されたお話です。

K・N

『FACTFULNESS (ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』

ハンス・ロスリング、オーラ・ロスリング、アンナ・ロスリング・ロンランド著
日経BP
昨今、2030年までに達成

すべき17の目標として、SDGsがよく取り上げられますが、私たちは世界の現状を適切に理解しているでしょうか。まるで希望なく、どんどん世界が悪くなっていくように感じることはありませんが、果たしてそうでしょうか。この本を読んでいかに自分が無知で、世界の現状を把握していないかが分かります。世界平和や社会貢献を考えるならば、過去と比べて世界がどのように発展したかを正確に知る必要があるかと思えます。SDGsについて考えたいのであれば、まず読むこととおすすめします。

H・S

『内なる町から来た話』
シヨーン・タン著、岸本佐知子訳 河出書房新社
ムーン・フィッシュを捕まえにゆく少年、一晚だけ

咲き誇る巨大樹の花、すべてを知る鳩たち。美しい画集のような短編集のような、不思議な本です。絶望的な話も、希望に満ちた話も、眠る前に一篇ずつ、まずはゆっくり絵を眺めて、それから、物語のなかへ入ってゆくことをおすすめします。気に入ったら、同じくシヨーン・タンの『遠い町から来た話』もぜひ。
H・M
『華氏451度』
レイ・ブラッドベリ著
ハヤカワ文庫
近未来、政府は、人々にテレビ端末からの情報だけを受け取り、本を所有し読むことを禁止しました。そして違反した者は、本を家もろとも焼かれてしまったのです。この時代ファイヤマンは、火を消すのでなく、火を使って本を焼く者「焚書官」を示していました。

タイトルの「華氏451度」は、紙が発火する温度で、一人のファイアマン、モンターグの心の成長を中心に描いた作品です。
モンターグは今日も違反者の家を焼いては、仕事に誇りを覚えていました。しかし彼は、本を守って焼き殺された老婆、一人の不思議な少女、本を愛する老教授、豊富な本の知識を持つが本を憎む上司などの出会いにより、次第に本を燃やす仕事や、それを強行する社会のあり方に疑問を持つていきました。本を読むことから始まる自由な発想・思考力の大切さを訴えた作品、今個人情報端末に頼り、マスコミなどが一方的に垂れ流す情報に踊らされている現代社会を予見した作品、ディストピアものの作品だが、主人公の心の

うに、予測できない様々なドラマに感動します。この本の内容は無名の大学がその箱根駅伝に参加するお話で、間違いなく勇気と希望を与えてくれます。映画やアニメにもなっていますが、ぜひ本でも出会ってください。

Y・B

『君が夏を走らせる』

瀬尾まいこ著 新潮文庫

中学から札付きのワルで通っていた大田。人生に半ば絶望していた金髪ピアスの十六歳が突然一歳児と過ごすことに。戸惑いや不安を感じながらも精一杯接する中で、かけがえのない喜びや希望を感じていく。ひと夏の少年と一歳児との交流に、明るく楽しい気持ちにさせられること間違いありません。

Y・K

『センス・オブ・ワンダーを探して 生命のささやきに耳を澄ます』

福岡伸一・阿川佐和子著

だいわ文庫

TVでよく見るエッセイスト・タレントと生物学者の対談集。誰にでもある子供時代のエピソードと、生き物や命の不思議がリンク、さらに話題は食事や病気、旅行など日常生活にまで繰り広げられる。読後感は、妙にワクワク、ソワソワと落ち着かない。新しい世界をもっと見よ、動き出せ、と諭(さと)されている気分なのだ。未知の世界、神秘的なものを知ること得られるワクワク感を求める貴女も、図書館の窓から

「Espoir (フランス語で希望)の広場」を眺めながら、ぜひ一読を。

N・A

『戦略がすべて』

瀧本哲史著 新潮新書

自分が「希望」する未来を手に入れるために、参考になる視点がたくさん紹介されている。特に、変化の激しいこの時代に大人になるみなさんには、早い段階で一度読んでもらいたい本。この本を読んで「戦略」的に考えることを意識するだけで、いろんなものの捉え方が変わるかもしれない。自分の中学・高校時代にこのような本に出会っていたら、人生変わっていたかもしれないと思う。

T・S

高校生以上

『さよなら妖精』

米澤穂信著 創元推理文庫

高校三年生の主人公は、

ある日ユーゴスラビアからきた少女マリーヤと出会います。好奇心旺盛なマリーヤと親交を深めながら日常の小さな謎を解いていく日々は、青春の楽しさに満ちています。しかし、この小説最大の謎、「マリーヤはユーゴスラビアのどの地方に帰郷したのか」に触れるとき、物語の世界はにわかには広がりません。戦争の続くユーゴスラビアに思いを馳せる主人公たちは、どんな結末にたどり着くのでしょうか。未来への希望や不安に揺れ、自分たちの知らなかった広い世界に目を向けることになる高校三年生の心情の描写と、綿密に構成された推理パートとのバランスは見事です。私も高校生のころに読み、大きく影響を受けた作品です。

Y・M

版

した翌朝、ゾウのような姿をした関西弁でしゃべる神様「ガネーシャ」があらわれます。主人公がガネーシャからの課題に取り組み、進化していく様子が描かれた作品です。是非、読んでみてください。

M・T

『スマホ脳』

アンデシユ・ハンセン著

新潮新書

日常生活では欠かせない存在となった、スマホやiPad。この便利であるツールの長期使用の影響を考えさせられる1冊です。中学生には少し難しいかもしれませんが、スマホとの上手な付き合い方を考えるきっかけになる1冊だと思います。

T・A

『ヘンな科学 ユイグノーベル賞 研究40講』

五十嵐杏南著 総合法令出

ダイナマイトの発明者として知られるアルフレッド・ノーベルの遺言に従って始まったのが世界的な賞であるノーベル賞であるが、そのパロディとして英語の「Ignoble」(恥ずべき、不名誉な)にかけて名づけられ始めたのがイグノーベル賞である。過去の受賞内容には、「コーヒーをこぼさずに歩くには？」とか、「キツツキが頭痛にならない理由は？」などがあり、人々を笑わせ考えさせてくれる業績や風変わりな研究に対して、時には笑いと賞賛を、時には皮肉を込めて授与される。40の受賞研究を通して、くだらないと思う一方で、科学の面白さを再認識してもらえると嬉しい。

T・H

『つながる勇氣 アドラー心理学がよくわかる動物たちのフォトブック』

岩井俊憲著 マキノ出版

コロナ禍で「孤独」が新たな社会問題になっていと言われています。対面や移動を控えなければいけない生活に、人と人とのつながり方が変わりました。

こんな時こそ、この本のキーワードである「共生力」、社会の中で他者とともに生きる力が大切だと思います。動物の写真に心がほっこりし、勇気づけられる言葉に出会えると嬉しいですよ。

A・B

ダーク・マテリアルズ

I 「黄金の羅針盤 上下」、

II 「神秘の短剣 上下」、

III 「琥珀の望遠鏡 上下」

フリリップ・プルマン著

大久保寛訳 新潮文庫

20年程前、「ライラの

冒険シリーズ」として刊行されていきました。大好きなシリーズでしたが、たしか絶版になっていたはず。

「11歳の少女ライラの世界では、皆が自分の魂の片割れである動物の姿をした守護精霊『ダイモン』とともに生活している。ある時、ライラの暮らすジョーダン学寮の周りで子どもの連続誘拐事件が発生。連れ去られた子が北極で危険な人体実験に使われていると噂される中、親友のロジャーまでもが姿を消してしまった。運命に導かれてライラは北に向かう。壮大な冒険がいま、幕を開ける！」ライラ

の世界は、私たちの世界の、いわばパラレルワールド。II部ではこちらの世界も描かれ、もうひとりの主人公、少年ウィルも登場。多彩な

登場人物のどのひとりも魅力的です。希望をもって困難に立ち向かう人々。犠牲は当然つきまとい、ラストは涙なしには読めません。2007年に映画化されるも、I部だけで終わってしまった残念だったなあ…と思っていたら、「ダーク・マテリアルズシリーズ」として復刊！なぜ今？ワーナーの海外ドラマシリーズのひとつとして実写化されて好評だからかな？ともあれ、復刊されてうれしい！よかった！骨太のファンタジーの名作です、ぜひ！

『あきない世傳 金と銀』

1〜10 高田郁著 ハルキ文庫（角川 時代小説文庫）

今年の「癒し」がテーマの時にも挙げました。みをつくし料理帖の高田郁さんの新シリーズ、あれからまた2冊出ました。今、舞台

は江戸ですが、主人公幸（さち）の郷里は、私たちにとつては親しい「武庫川」のほとりの津門村。幸は、学者だった父の死後、9歳で大坂の呉服商五鈴屋に奉公に出されます。それから幸の波乱万丈！過酷な運命に翻弄されるとはこのことかというありさまなのですが、幸はいつも知恵を絞りと、周囲の人々に心を尽くし、困難を乗り越えます。前を向いて懸命に生きる幸を応援しながら、いつもいつのまにか、読み手の私のほうが励まされ、希望を抱いていることに気付きます。10巻は久しぶりにとても穏やかな気持ちで読み切るこ

『君にさよならを言わな』

1 学期後半、中学3年生は同じ著者の『神の島のこどもたち』を読んでいます。私より10も若く、もちろん戦争を体験していない作者が、太平洋戦争をテーマにしてお書きになった本ですが、この『世界の果てのこどもたち』もそうです。恐ろしい日々を、しかし希望をもって生きた人々のことを、語り継がなければなら

とができました。新刊が待ち遠しいシリーズです。とにかくワクワクしたい、元気を出したいときに、高田郁さんの作品はおススメで

す。「みをつくし料理帖」シリーズも「出世花」シリーズも、ぜひどうぞ！

『世界の果てのこどもたち』

中脇初枝著 講談社文庫

『世界の果てのこどもたち』は、戦時中の満州で出会った、生まれも境遇もまったく違う3人の少女たちの物語。勉強なさったうえで確かな裏付けがあること

がわかりますが、第一級のエンターテインメントに仕上がっていて、まさにページをめくる手が止まりません。2016年本屋大賞第3位の傑作です。

『一流の頭脳』

アンダー・ハンセン著 御船由美子訳 サンマーク出版

『スマホ脳』

アンデッシュ・ハンセン著 久山葉子訳 新潮新書

『一流の頭脳』『スマホ脳』どちらも著者のカタカナ表記が違っていますが、同じ人、スウェーデンの精神科医です。読後、昔、『海馬』脳は疲れない（池谷裕二・糸井重里）や『奇跡の脳（ジル・ポルト・テイラー）』を読んだときと同じように、自分の中に希望と元気が生まれているのを感じました。脳には可塑性がある。望んで努力す

「猫が教えてくれる大切なこと」に関わる「偉人エピソード」と「偉人たちの名言」が載っています。内容を十分理解しようとして読むと68もあるので、少ししんどいかもかもしれません。まずは、表面の猫の写真と短い言葉を楽しみ、より詳しく知りたいと思ったら裏面も読むというのはいかがでしょう。かわい猫の写真と言葉から、明日への希望を与えてもらえるかもしれません。

『リトルターン』

ブルック・ニューマン作 五木寛之訳 集英社文庫

今まで飛べていたのに飛べなくなってしまう。戸惑いの中で、今まで気づかなかったことに気づいていく一羽の鳥のお話です。希望を見失ったとき、しっかりと休めばいい。ただ時間

を無駄に過ごすのではなく、じっくり学ぶ時間にすればいい。「飛べないことで悩んでいる人、急に飛べなくなって困惑している友に、この一冊をそつと渡したい（訳者 五木寛之）」

『大谷翔平 86のメッセージ』

児玉光雄著 三笠書房 知的生きかた文庫

今、大活躍の大谷翔平、彼の言葉を読んで、何かの参考になり、また頑張れる源に少しでもなれば…。

『君にさよならを言わな』

七月隆文著 宝島社文庫

幽霊が見えるようになって主人公が、いろいろな幽霊に出会い、幽霊たちの「思い残し」を解決していくお話です。きれいな事ばか

りではなく、時にやるせない切ないまま話が進むこともありますが、ラストにはそれぞれに合った「良い形」で終わりをむかえ、フツと気持ち軽くなります。救われたような不思議な読後感を味わって下さい。

『くちびるに歌を』

中田永一著 小学館文庫

長崎県五島列島の公立中学校を舞台にした臨時赴任の女性音楽教員と合唱部の生徒達の交流を描いた物語です。私事で恐縮ですが、高校の教員をしていた父親の単身赴任先の上五島に小

『風が強く吹いている』

三浦しをん著 新潮文庫

私は箱根 駅伝が大好きで、2月の礼拝でもお話したよ



立っている。あらゆる構成員にとつて、常に自分が主体でなければ成立しえないシステムである。しかし、日本の風土の中で、この民主主義を育てることは大変難しい。社会科教員として日々対峙している「難問」である。18歳になると選挙権を持つ。急に責任を問われる。何ができるか、何をすべきか、考えてくれる時間になると嬉しい。

『ほんのちよつと当事者』
青山ゆみこ著 ミシマ社

神戸生まれで私より10歳年上の筆者が、ほぼ話し言葉で体験したり感じたたりしたテーマを軽妙につづった作品。「うっかり自己破産しかけた」とか、性暴力や差別とか、遺品整理とか、まったくもって重たいテーマをこの軽さで、ユーモアも忘れず、しかし、そこに

ある「闇」をしつかりと描いているのは関西人の妙だなと感じてしまう。しかもさすが神戸っ子。品も忘れない。いろいろな「困りごと」を「自分事」として考えてみた、という内容は、困ったときに思い出せば活路が見つかるかもしれないし、判断を誤らずに済むかもしれないし、今困ったところがある人は、ちよつとクソツと笑って、「なんとかなるか」と良い方向に考えられるかもしれない。細川貂々氏のかわいいイラストも、くせになる。

【十二国記シリーズ】
小野不由美著 新潮文庫

数年前に一度紹介したものではありませんが、先日放送部のお昼の放送でどなたかが紹介されていたので便乗。今回の「希望」にふさわしい本の1冊だと思っている。

王と麒麟が国を治める世界で、それぞれの国の王や麒麟が民の安寧を願って国を運営している。それでも、国は傾くのである。傾いた国を助けようともがく者、自暴自棄になる者、様々な人間がリアルに描かれながら、シリーズはとある一つの国の問題に収束していく。シリーズを通して、人々の希望とは何か、生きるとは何かを考えずにはいられない。

『人を動かす！安西先生の言葉』
遠越段著 総合法令出版

アニメ「スラムダンク」に登場するバスケットボール部顧問の安西先生。個性溢れるメンバーたちを独特な雰囲気で大らかに、時に鋭く指導する安西先生には多くの名言がある。その1つに「最後まで：希望を捨て

てちやいかん。あきらめたらそこで試合終了だよ。」というセリフがある。当たり前で、どこかクサイセリフだが、スポーツ、勉強、何にでも当てはまる言葉である。最後まで諦めず、希望を持ち続ける、簡単そうでなかなかできないこの言葉をいつも胸のどこかに留めておいてほしい。とりあえず、スラムダンクの単行本を制覇すること。

『人生はニヤンとかなる！』
水野敬也・長沼直樹共著 文響社

猫好きの人にはたまらない本です。各ページの表面には、猫の写真と「猫が教えてくれる大切なこと」が短い言葉で載せられています。（下には英語でも記してあります。）裏面には、

れば、まだまだ変化する。年を取るのもいいじゃないか！そして、人類はデジタル社会とどう付き合っていくのかという問題。読み物としてとつてもおもしろいですし、これから生きる私たちみんなの役に立つ知見が満載です。中学生でも読めるはず。読んでほしい！

『置かれた場所で咲きなさい』
渡辺和子著 幻冬舎文庫

みなさん、思うようにいかない時、誰かのせいにしてたり、不機嫌になったりしたことはありませんか？この本には、そんな自分を前向きしてくれる言葉がたくさんあります。前向きに毎日を過ごせたらいいと思いませんか。

H・K

『ナショナル・ストーリー・プロジェクト』ポール・オースター編 柴田元幸訳・編 アルク

原文のほうは高校生向け。中学生は訳を読むとよいと思います。
ポール・オースターがラジオ番組で、朗読した物語を英日両方で文字起こしたものです。全て一般人が投稿した実話だそうです。いくつかの物語には不思議なことが語られていて、

「事実は小説よりも奇なり」を地で行く感じです。自分の日常にもこんなことが起こるかもと思うと、希望が持てるかな？

『なぜ私たちは理系を選んだのか』榊太一著 岩波

ジュニアスタートブックス
この本には登場しません
が、阿部寛、ムロツヨシ、藤木直人、西島秀俊、向井

理、山本美月、阿部亮平 (Snow Man)、伊野尾慧 (Hey Say Jump)、ビートたけし、博多華丸、ナダル (コロチキ)、みなさん理系です。

『ボクの音楽武者修行』
小澤征爾著 新潮文庫

今や世界的指揮者の小澤征爾さんが、「外国の音楽をやるためには、その音楽の生まれた土地、そこに住んでいる人間をじかに知りたい」とスクーターでヨーロッパ一人旅に向かったのは24歳の時。ブザンソン国際指揮者コンクール入賞から、カラヤン、バーンスタインに認められてニューヨーク・フィル副指揮者に就任するという信じられないほどのサクセスストーリー。

『家族だから愛したんじゃ』
H・S

なくて、愛したのが家族だった』
岸田奈美著 小学館

車いすユーザーのお母さん、知的障害のある弟、急逝したお父さん。1991年生まれ、兵庫県神戸市出身の岸田奈美さん。笑いと涙の自伝エッセイ。引き込まれる文章で、あつという間に読み終わってしまいました。岸田奈美さんの目に映っている世界を知ることが、自分の目も変われそうな気がします。

『夜明けのすべて』
瀬尾まいこ著 水鈴社

課題図書がテーマが「希望」だということは知っていた。推薦図書をさがさないと、ということも頭の片隅にはあった。この本と出会ったのは図書館。その前に読んだ同じ作者の『君が夏を走らせる』も面白かつ

The Boy, the Mole, the Fox and the Horse.
 written by Charlie Mackesy
 Harper Collins
 I recommend this story because it teaches about kindness and friendship and it is heartwarming. It also has many beautiful illustrations.
 M・C

たし、読んでみるか、そんな気持ちでページを開いた。読み終わった瞬間思った。「これじゃん。希望って！」
 月経前症候群でイライラが抑えられない美紗と、パニック障害の山添君。自分のことは何もできないけれど、相手におせっかいをやくうちに…。考えさせられる言

葉もところどころあるけれど、まずは軽く楽しく読んでみるのがいいかもしれない。

【Masato】岩城けい著 集英社文庫
 父親の転勤にともない、家族全員でオーストラリアに住むことになった真人は、現地の公立小学校の5年生に転入したが、英語が理解できない。クラスメイトが何を話しているのか、ほとんどわからず、からかいの対象に。そんなある日、人気者ジェイクにサッカークラブに誘われ、ようやく現地に馴染んでいく。しかし、それは現地に馴染めず苦悩する母との葛藤の始まりだった…。自分の居場所は自分でつくっていく、そんな真人の成長を感じる一冊。
 M・T

【THE BOY WHO HARNESSSED THE WIND】William Kamkwamba and Bryan Mealer PUFFIN BOOKS
 ウイリアムの生まれ故郷のマラウイの村は、2000年当時まだ電気がなく、水を得るにも一苦労、干ばつで作物は育たず飢餓に苦しむ厳しい状況でした。ウイリアムは勉強を楽しみに中学に入学しましたが、彼の一家はとても貧しく、学費が払えずに退学させられてしまいます。勉強することが大好きだったウイリアムは、司書さんの計らいで退学後も図書室を使わせてもらい、本を読んで独学で工学の知識を得て、廃材を集めて、なんと風力発電機を作りあげたのです。彼のおかげで村に電気を引くことができ、井戸から水をくみ上げるこ

とが容易になり、農業が潤

い始めます。困難の中でも未来への希望を諦めずに力強く生きるウイリアムの姿に、大きな感動と勇気をもたらえることでしょう。

平易な英語で書かれていますので、辞書なしで読めます。GSコースの人だけでなく、全校の皆さんに読んでもらいたいと思います。(邦題『風をつかまえた少年』で訳本や絵本が出ています。昨年度中3の英語の教科書にもこの話が載っていました。映画にもなっています。ぜひ観てみてください。)

【まなぶ】長倉洋海著 アリス館
 著者の写真絵本シリーズ「いのる」「はたらく」「まなぶ」「つながる」「さがす」のうちの1冊、日本の学校とは随分と違う環境で学ぶ世界各地の子供

たちの姿が収められています。

学び方は違っても、共通しているのは「学びたい」という真剣な表情、目の輝き。学ぶことは生きること、世界とつながること、自分の未来を切りひらくこと。学ぶことは希望そのもの。そのことを実感します。松蔭の皆さんはそういう「学び」をしているでしょうか…。

【人は見た目！と云うけれど】外川浩子著 岩波ジュニア新書 《図書館にありませう》

顔に痣(あざ)があつたり、脱毛で苦しんだり、耳や口の形、構造に異常がある＝簡単に言うと「変な顔」…。この本はそんな先天的あるいは後天的に顔や体の特徴的に目立つ症状を持つ人たち、「外見」をバカに

されたり、それがもていじめられたりした人たちを、正面から取り上げた本です。

「見た目問題」ともいうそうです。「見た目に問題がある」というのではなく、「見た目を理由とする差別や偏見によつて生じる問題」ということです。シリアスな話になりそうですが、著者の外川さんが暗くなることとなくじょうずに、考えるべきことを整理してくれています。「私も皆さんと同じ年の頃には、『どんなに建前をつくらつても、しょせん本音では、人は見た目なんですよ』と思つたこともありました。でも、今は違います。たしかに、見た目がよければ得をすることもあるかもしれないけれど、世の中はそんなに単純ではありません。(外川さん)「単純じゃないからこそ希望

も持てるつてもんです。

【あんじゅうー三島屋変調百物語事続ー】宮部みゆき著 角川文庫

三島屋伊兵衛の姪のおちかが色々な不思議話を聞いていくというシリーズの1つ。本書の第三話には、空き屋敷に住みつく「暗獣(あんじゅう)」と、そこに引越してきた老夫婦との愛しくも切ない話がつづられています。最後はハッピーエンドとはいかないですが、真に「相手を思いやる気持ち」というのが、1つの希望のように浮かびあがつてきます。他の話もちよつと怖かったりしますが、とても面白いのでぜひ読んでみて欲しいと思います。

【北欧の幸せな社会のつ】N・N

読書というと、小説とか評論とか、そういう文字ばかりのもの、イメージしてしまふので、そういうものではないと、先に言っておく。ただし、ポップな雰囲気でもふんだんに写真も載せて進んでいくその内容は、日本人にとつては全くポップではない。欧米諸国にとつて政治とはポリス時代からの「権利」の象徴であり、民衆がその権利を勝ち得ては失い、失つては勝ち得ながら今日があるという大変身近なものなのだろう。しかし、日本にとつて「参政权」とは、明治期に欧米に屈しない方策として「降つてわいてきた」ものであるという印象は現在に至るまで否めない。民主主義は、権利と義務とリスクで成り

くり方】あぶみあさき著 かもがわ出版

読書というと、小説とか評論とか、そういう文字ばかりのもの、イメージしてしまふので、そういうものではないと、先に言っておく。ただし、ポップな雰囲気でもふんだんに写真も載せて進んでいくその内容は、日本人にとつては全くポップではない。欧米諸国にとつて政治とはポリス時代からの「権利」の象徴であり、民衆がその権利を勝ち得ては失い、失つては勝ち得ながら今日があるという大変身近なものなのだろう。しかし、日本にとつて「参政权」とは、明治期に欧米に屈しない方策として「降つてわいてきた」ものであるという印象は現在に至るまで否めない。民主主義は、権利と義務とリスクで成り